

体表エコー検査				S135	
				担当部署	
体表エコー				生理	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→表在エコー→甲状腺エコー(中検技師)* 体表・皮膚疾患を含む			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		腫瘍の存在部位			
検査受付時間		8 : 45 ~ 17 : 30			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		検査部位が露出しやすい服装で来院してもらう。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	人体(体表 : 皮膚表面)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		ベッド可能			
検体受入不可基準		1) 観察部位に新鮮な傷や潰瘍などがあり、エコーゼリーを塗布して検査ができない患者 2) 検査に同意を得られない患者			
保管検体の保存期間		特記事項なし			
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		半日(診察前：1 時間)			
生物学的基準範囲		該当なし			
臨床判断値		該当なし			
基準値					単位
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因		該当なし			
臨床的意義		しこりが触れる、腫れている、色調の変化があるなどの症候があり、視触診だけでは判断できない場合に内部性状や形態、血流情報、周囲組織との関係が鑑別診断に役立つ。また、診断は確定しているが切除に際して病変の広がりや深達度、病変と周囲組織との関係を確認するのに有用である。皮膚・皮下の病変は種類が多く、同じ疾患でも感染の合併や発生部位によって超音波像が異なる。①病変が皮膚・皮下のどの部位に存在し、大きさや広がりかどうか(存在部位・広がり、周囲臓器との関係)、②病変の形態や境界、③内部性状、④血流の多寡、⑤硬さや圧迫による変化など鑑別診断のポイントとなる超音波所見を判断する。			